

人間と環境と水

登米市立米山中学校

三年 古関楓

わたしたちは毎日、お風呂、トイレ、洗濯、水分補給などをするために、当たり前のように水を使っています。そんな当たり前だからこそ、よく考えていくべきだと思います。では、水について考えていきましよう。

国や地域、ライフスタイルによって大きな差がありますが、平均すると一人一日あたり約百八十六リットルの水を使用するそうです。正直、とても驚きました。一人がそのくらいだと十人で千八百六十リットル。想像がつきません。これをさらに世界中、と考えるとものすごく恐ろしいです。そこでわたしは、どのようにしたら節水することができるか、自分なりによく考えました。一つ目は、歯磨きや顔を洗っているとき、水を出しっぱなしにしないこと。二つ目は、洗濯物を多く出さないことです。この二つは小さい子供から大人まで、だれでもできるのではないのでしょうか。

次に取り上げるのが、日本人は水を使いすぎている問題についてです。日本とケニアを比較します。日本人が一人一日に約百八十六リットル使用するのに対し、ケニアは約十四リットルだそうです。日本は水道設備が整っている環境にあるため、ついつい何も考えずに使用してしまうのではないかと思いました。一方、ケニアは、毎日水をくみに行かないと水が得られない地域など、水のアクセスの厳しい環境もあるため、こんなにも少ないそうです。どれほど日本が他国と比べて裕福なのか、思い知らされました。

次に、水道水をつくるためにいくらお金がかかるかという疑問についてです。水道水を一立方メートル、湯船約五杯分をつくるのに百九十五円かかるそうです。十一パーセントが職員への給料、三十五パーセントが施設

の更新などにとっておくお金、四パーセントが施設を建てるための借入金の利息、四十七パーセントが水をつくり、送り届けるためのお金だそうです。消費者のわたしたちも、つくることは関係ないといって無知であるのではなく、きちんと理解した上で、使っていかなければならないのだと実感しました。

次に、地球温暖化と水についてです。例えば、四度気温が上がったとき、年平均降水量はどうなるのかについて、温暖化すると海水温が上昇して大気中の水蒸気も増えることで蒸発する水蒸気量が増加するそうです。水蒸気量の増加は降水量の増加をもたらす一方、亜熱帯では水蒸気が上昇して雲粒雨粒になるときに凝結熱によって風向が変化するため、降水量が少なくなるそうです。このように、メリットやデメリットもたくさん出てきます。ある程度水がないと、水分補給の際や、生活するのに不便にしかならないと思いました。

自分なりに水について調べ、世界中で水についての問題があるということに気付き、節水することの大切さ、水を使えるということは当たり前ではないということが分かりました。何も考えず、思うがままに水を使用するのではなく、無駄にしないか、本当に使うべきなのか、よく考えて、常に節水を心がけると、よりよい環境を作る第一歩なのではないかと思いました。わたしは、よく料理をするのですが、洗い物をする際に今回学んだことを胸に刻んで、行動します。水を無駄なく使うための方法を実践し、世界の環境を大切にしていきたいと思います。